

1 文明のおこり

スタートドリル

P.6, 7

- 1 (1) アレクサンドロス
(2) ローマ (3) 始皇帝 (4) 漢

考え方 (1) マケドニアは、ギリシャ北部にあった古代王国。アレクサンドロス大王は紀元前4世紀に、ガンジス川西岸まで支配した。

- 2 (1) 打製石器 (2) 新石器時代
(3) エジプト文明 (4) ギリシャ
(5) シルクロード (6) イエス

考え方 (4) パルテノン神殿は、紀元前5世紀につくられた、古代ギリシャを代表する建築物。

- 3 (1) ① 猿人 ② 古代(四大)
③ 始皇帝 ④ キリスト
(2) 道具

考え方 (1) ① 人類よりもゴリラなどの類人猿に感じが似ている。
(2) 前あし(手)で石器などの道具を使った。

1 人類のおこりと四大文明 P.8, 9

- 1 (1) サヘラントロプス・チャデンシス
(2) クロマニヨン人
(3) 打製石器 (4) 新石器時代

考え方 (1) 最古の人類のサヘラントロプス・チャデンシスは、アフリカのチャドで発見された。
(2) クロマニヨン人は新人にあたる。
(3) 旧石器時代は打製石器、新石器時代は磨製石器が使われた。
(4) 新石器時代にあたる日本の縄文時代には、例外をのぞいて農耕や牧畜は行われなかった。

- 2 (1) 食料 (2) 身分
(3) 青銅器 (4) 文字

- (5) 暦学(太陽暦・太陰暦)

考え方 (1)・(2) 農耕によって生産される穀物は貯蔵が容易であり、また、通年で計画的に生産することから指導者が生まれた。

- (3) 最初に使用された金属器は青銅器である。
(5) エジプト文明では太陽暦が使われ、他の文明では太陰暦が使われた。

- 3 (1) A ナイル川
B チグリス川・ユーフラテス川
C インダス川 D 黄河
(2) A 太陽暦 B くさび形文字
C アーリア人 D 儒教

考え方 (1) 大河の流域は洪水によって肥沃な土地が広がり、農耕に適していた。

- (2) A 太陽の運行からつくられた暦。太陰暦は月の運行からつくられた。C アーリア人の侵入によって、文明がほろびた。D 春秋時代の孔子の教えを体系化したもの。

- 4 (1) エジプト文明 (2) 中国文明
(3) インダス文明

考え方 (1) エジプト文明では王は神であり、生前から巨大な墓(ピラミッド)がつくられた。

(2) 亀の甲や牛の骨などに刻まれた文字。漢字のもと

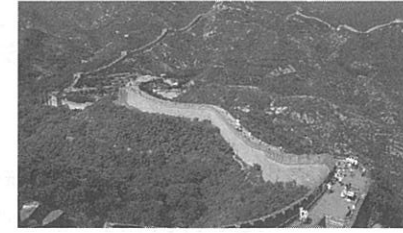


になった。**▲甲骨文字**
(3) 都市国家の遺跡。水道などの公共施設もあった。

2 古代の世界 P.10, 11

- 1 (1) 秦の始皇帝 (2) 万里の長城
(3) 漢の武帝 (4) シルクロード

考え方 (1) はじめて中国全土を統一した皇帝という意味で、始皇帝と名乗った。
(2) 現在の万里の長城は、明の時代につくられた。



▲万里の長城

(4) 中央アジアを通過して、中国とヨーロッパを結んだ。

- 2 (1) ポリス (2) スパルタ
(3) 民主政治 (4) ローマ

考え方 (1)・(2) アテネとスパルタは、権力をめぐって争った。

(3) 都市の広場が市民会と呼ばれる集会所が開かれ、政治が決められた。

(4) 初期には民主制がとられたが、やがて帝政となった。

- 3 (1) A ローマ帝国 B 漢
(2) シルクロード(絹の道)
(3) 絹織物

考え方 (1)・(2) 2世紀ごろ、東に漢、西にローマ帝国が栄えたことから、東西の交流が活発になった。

(3) 中国の特産品として、貴重なものだった。

- 4 (1) アレクサンドロス大王
(2) ヘレニズム文化 (3) ローマ
(4) ローマ法

考え方 (1) ギリシャ北方のマケドニアの王であったが、ギリシャを統一し、ペルシャをほろぼし、インドまで達する大帝国をつくった。

(2) ヘレニズムとは、ギリシャ風の文明という意味。

3 宗教のおこり P.12, 13

- 1 (1) シャカ (2) イエス
(3) ムハンマド (4) コーラン

考え方 (1) シャカは、紀元前6世紀ごろにインド(今のネパールの南部)で生まれた。

(2) イエスの生まれたパレスチナは、西アジアの地中海に面した地域で、今はイスラエル領となっている。

(3) ムハンマドは、今のサウジアラビアのメッカで生まれた。

- 2 (1) バラモン (2) 仏教
(3) ユダヤ教 (4) キリスト教
(5) イスラム教 (6) アラー

考え方 (1)・(2) 当時インドでは、バラモンを最高職とするカーストという身分制度があった。シャカはこの身分制度を批判し、仏教では人はみな平等であるとした。

(3)・(4) パレスチナ地方ではユダヤ教が信仰され、ユダヤ人だけが神に救われると説いた。イエスは、神の前ではみな平等であるとした。

(5)・(6) ユダヤ教・キリスト教の影響を受けたムハンマドは、唯一神のアラーを信じることの大切さを説いてイスラム教を開いた。

- 3 (1) ① キリスト教 ② 仏教
③ イスラム教 (2) ① インド
② パレスチナ ③ メッカ
(3) ① キリスト教 ② イスラム教
③ 仏教 (4) ① イスラム教
② 仏教 ③ キリスト教

考え方 (3) ③ 仏教は、シルクロードを通過して中国に伝わり、その後朝鮮、日本に伝わった。

(4) ① ムハンマドは、争いや不正をやめ、貧者や弱者を助けるように説いた。② 仏教は、人はみな平等であり、修行をして心の迷いを捨

てれば、この世の苦しみから救われると説いた。③ イエスは、神は苦しんでいる者を救うと説いた。

まとめのドリル

P.14, 15

- 1 (1) ① A サヘラントロプス・チャ
デンシス B ジャワ原人
② エジプト文明 (2) 青銅器
(3) ① 象形文字(ヒエログリフ・神聖
文字) ② くさび形文字
③ 甲骨文字 (4) モヘンジョ・ダロ
(5) ① シャカ(釈迦) ② 孔子

考え方 (1) ② 肥よくな土壌で農産物の生産力が高かったこと、定期的なはんらんを予測するために、天文学や暦学、測量術が発達したことから、すぐれた文明がおこり、強大な王権が出現した。

(3) ③ 甲骨文字も象形文字の一種だが、亀の甲や牛の骨に刻まれたものが残っているところから、このように呼ばれている。

- 2 (1) ① ポリス ② アテネ
③ アレクサンドロス ④ イエス
(2) a ヘレニズム文化
b キリスト教

考え方 (1) ① 各地のポリスは独立した国家であったが、オリンピアの神を信仰するなど共通の基盤を持ち、他民族の侵攻には連合して戦った。

② アテネの市民はペルシャ戦争で重装歩兵として活躍し、発言力を強めていった。

(2) b キリスト教はユダヤ民族が信仰したユダヤ教をもとに生まれた。

- 3 (1) 始皇帝 (2) 武帝

考え方 (1) 戦国の七雄といわれた、韓・魏・趙・齊・楚・燕・秦のうち、秦が他の六諸侯をほろぼして中国を統一した。

2 古代日本の成り立ち

スタートドリル

P.18, 19

- 1 (1) 氷河時代 (2) オオツノジカ
(3) たて穴住居 (4) 九州
(5) 青銅器 (6) 百濟

考え方 (2) 巨大なツノを持った大形のシカで、縄文時代早期まで生き残っていたらしい。

(4) 紀元前4世紀ごろに九州北部に伝えられた稲作の技術は、紀元前後には青森県にまで達した。

- 2 (1) 貝塚 (2) 吉野ヶ里遺跡
(3) 大仙(大山)古墳 (4) 仏教

考え方 (2) 吉野ヶ里遺跡は、二重の堀に囲まれた約40万m²におよぶ、日本列島最大の環濠集落である。

(3) 日本最大の大仙古墳は、1人1日1m³の土を運ぶとしても、1000人働いても約4年かかるという。

(4) 4世紀ごろ朝鮮半島に伝わった仏教は、6世紀に日本に伝わった。

- 3 (1) ① 縄文 ② 弥生 ③ 古墳
④ 奴国 ⑤ 邪馬台国
⑥ 卑弥呼 ⑦ 縄文 ⑧ 弥生
⑨ 大仙(大山)古墳 (2) 大王

考え方 (1) ② 東京都文京区弥生町で最初に発見されたので、弥生土器と名づけられ、この時代を弥生時代という。

(2) 熊本県の江田船山古墳から出土した太刀に大王の文字があることから、5世紀には大和政権の王を大王と呼んでいた。

1 日本の原始時代

P.20, 21

- 1 (1) 氷河時代 (2) アジア大陸
(3) ナウマン象 (4) 打製石器
(5) 旧石器時代

考え方 (1)・(2) 地球の寒冷化のため両極地方の海水が氷となり、海面が現在よりも100m以上も低かった。

(3) 体毛が多く耳が小さいなど、寒冷地に適していた。約1万5000年前に絶滅した。野尻湖での発掘が有名。

(4)・(5) 磨製石器が使われるようになるのは新石器時代。

- 2 (1) 縄文土器 (2) 移動生活
(3) 貝塚 (4) 土偶

考え方 (1) 土器をつくるときに、空気をおし出すためにひも状のものやへらで土を固めたあとが縄文となった。

(3) ごみ捨て場というよりは、生命のなくなったものを捨てた場所と考えられている。水辺では重要な食料が貝であったことがわかる。

- 3 (1) 岩宿遺跡 (2) 約1万年前
(3) ウ

考え方 (1) 岩宿遺跡発見以前は、日本には旧石器時代はなかったというのが考古学の通説だった。

(3) 土器をつくる技術はまだなく、無土器時代・先土器時代ともいわれる。

- 4 (1) たて穴住居
(2) 貧富や身分の差がなかった。
(3) 新石器時代

考え方 (2) まじない師や指導者などがいたとしても、基本的には平等な社会だった。

(3) 磨製石器が使われていたが、一般的には農耕や牧畜は始まっていなかった。

2 弥生時代

P.22, 23

- 1 (1) 稲作 (2) 北九州
(3) 青銅器 (4) 石包丁
(5) 高床倉庫

考え方 (3) ずっと銅の合金。世界史では青

銅器時代の後に鉄器時代となるが、日本にはほぼ同時に伝わった。そのため鉄器はおもに工具や武器に、青銅器は実用品でなく宝物に使われた。

- 2 (1) 貧富の差 (2) 身分の差
(3) 国 (4) 中国皇帝
(5) 邪馬台国

考え方 (4) 当時、朝鮮半島は中国の支配下にあり、役所が置かれていた。東アジアは中国を中心とした国際秩序ができつつあり、倭と呼ばれた当時の日本は、その東の辺境にあった。

- 3 (1) 弥生土器 (2) イ
(3) 銅鐸 (4) 祭りのための宝物

考え方 (1) 高温のかまで焼かれたため、縄文土器に比べて薄手でかたかった。(3)・(4) 銅鐸が具体的にどのように使われたかは不明であるが、祭器であろうと想像されている。

- 4 (1) 奴国 (2) 後漢(漢)
(3) 卑弥呼 (4) 倭人伝(魏志倭人伝)

考え方 (1) 金印が博多湾の志賀島で発見されたことから、現在の福岡市付近にあったと考えられている。

(4) 中国の三国時代の後、晋の時代に書かれた歴史書「三国志」「魏書」の「東夷伝」の中の「倭人の条」。

3 古墳文化と国土の統一

P.24, 25

- 1 (1) 王 (2) 前方後円墳
(3) はにわ (4) 玉や鏡

考え方 (1) 多くの人々を動員して工事を行わせる力と技術を持っていた。

(2) 前方後円墳は日本独特の古墳の形式と言われていたが、朝鮮半島にも存在することが確認されている。

(3) 土留めに使われた円筒はにわと、人や生き物、物などをかたどった形象はにわがある。

- 2 (1) 奈良県 (2) 5 (3) 大王

- (4) 氏 (5) 臣 (6) 氏姓制度

考え方 (3) 大王は、7世紀後半ごろから天皇と呼ばれるようになった。

(4) 豪族は、血縁関係を核とした氏という集団を組織していた。

(5) 臣は皇族出身者にあたえられたと伝えられている。有力な者は大臣となって、政治に参加した。

(6) 氏には臣、連などの姓があたえられ、朝廷の仕事を担当していた。

- 3** (1) 倭 (2) 百濟
(3) 新羅・高句麗 (4) 南朝
(5) イ (6) 渡来人 (7) イ・エ
(8) 仏教

考え方 (1) 中国は周辺の諸民族を自身のイメージに合わせて呼び名をつけた。倭には従順な人という意味があるが、日本をなぜ倭と呼んだかは不明。
(2) 朝鮮古代の国名で、都は今のソウルの近くにあった。朝鮮読みでは「ひゃくさい」、日本読みでは「くだら」という。
(4) 当時南朝の王朝は宋。北朝の王朝は遊牧民族であったため、漢民族である南朝を正統な中国皇帝とした。

まとめのドリル

P.26, 27

- 1** (1) ① B ② A ③ C
(2) イ (3) 貝塚 (4) 古墳
(5) 渡来人 (6) A 土偶

B 銅鐸 C はにわ

考え方 (1) ①狩猟・採集生活から農耕生活へ移り、生産が増加して貧富・身分の差ができた。

(5) 大陸との関係が緊密になると、日本に移り住む人々が増えた。

- 2** (1) エ (2) ウ (3) イ
(4) 邪馬台国 (5) エ (6) ア
(7) 北九州
(8) C→F→E→D→B→A

考え方 (1)・(2) 伽

耶は朝鮮半島南部の小国が分立していた地方。

(3) Cは旧石器時代で、このころは打製石器が使われていた。

磨製石器が使われるようになったのは、新石器時代。
(7) 稲作とともに伝わった金属器は、青銅器と鉄器。



▲5世紀の朝鮮半島

定期テスト対策問題

P.28, 29

- 1** (1) A・ウ (2) B・エ
(3) C・イ (4) D・ア

考え方 (1) エジプト文明では、強大な権力を持った王が神とされ、ピラミッド、スフィンクスがつくられた。

(2) メソポタミアとは「二つの川の間」という意味で、チグリス川・ユーフラテス川流域のことをさす。

(3) インダス文明の重要な遺跡は、モヘンジョ・ダロのほかにはハラッパーがある。アーリア人の侵入によってほろびた。

(4) 中国の黄河流域に起こった文明。現在知られている中国最古の王朝として、殷があったことは当時の都の遺跡といわれる、殷墟の発掘などであきらかになっている。

- 2** (1) スパルタ→アテネ
(2) 中国→インド
(3) インド→エジプト
(4) 綿の道→絹の道(シルクロード)

考え方 (1) ギリシャのポリスのすべてで民主政治が行われていたわけではない。スパルタは王政で、征服した多くの

先住民をポリス共有の農耕奴隷として支配した。また、「スパルタ教育」という言葉があるように、質実剛健で軍団主義のポリスだった。

(2) アレクサンドロスはインドまで達したが、病死して遠征は中止された。かれの征服した地は、部下の将軍によってアンティゴノス朝マケドニア、プトレマイオス朝エジプト、セレウコス朝シリアなどの王国に分裂した。

(3) オリентはラテン語で「太陽ののぼるところ」の意味。インドはふくまれていない。

(4) ヨーロッパでは貴重だった中国産の絹織物が運ばれたことからこの名がついた。

- 3** (1) イ (2) ア
(3) ウ

考え方 (1) 奴国の国王が中国皇帝(後漢の光武帝)から金印を授かったのは1世紀のこと。倭王武が南朝の宋に使いを送って朝鮮半島南部の指揮権を認めてもらおうとしたのは5世紀のこと。平城京の建設は8世紀のこと。

(2) 「漢委奴国王」と刻まれた金印で、江戸時代の後半に福岡市の志賀島で発見された。

(3) 地図の中国が魏・蜀・呉の三国に分かれていることから、三国時代ということがわかる。

- 4** (1) はにわ (2) 前方後円墳
(3) 大王 (4) 大和政権(王権)

考え方 (1) はにわには、円筒はにわと形象はにわがある。形象はにわには殉葬などの宗教的な意味があると考えられている。

(2) 円墳と方墳を組み合わせた古墳。前方となっているが、方墳が前であるわけではない。

(3)・(4) 大和政権(王権)は有力豪族

の連合政権と考えられている。大王が天皇と呼ばれて権力が集中するのは、7世紀後半以降である。

3 古代国家のあゆみ

スタートドリル

P.32, 33

- 1** (1) 聖徳太子 (2) 十七条の憲法
(3) 大化の改新 (4) 壬申の乱
(5) 平城京 (6) 遣唐使

考え方 (1) 聖徳太子の父の用明天皇の妹が推古天皇である。聖徳太子から見て、推古天皇はおばにあたる。

(2) 朝廷に仕える豪族たちの守るべき基準を示したもので、今でいう憲法とはちがう。仏教・儒教などの思想を取り入れており、精神的な面で大王の権威の正当性を確立しようとした。
(3) はじめて大化という年号を定めたので、この改革を大化の改新といった。

- 2** (1) 飛鳥文化 (2) 法隆寺
(3) 班田収授法 (4) 風土記

考え方 (1) 飛鳥地方(奈良盆地南部)を中心に、日本で最初の仏教文化が栄えた。

(2) 日本書紀によると、670年に法隆寺が焼け、8世紀初頭に再建されるとされる。それでも、世界最古の木造建築である。

(4) 地方ごとに、日本の地理をまとめたもの。今残っているのは出雲・播磨・常陸・肥前・豊後の五か国。

- 3** (1) ① 飛鳥 ② 奈良
③ 小野妹子 ④ 平城 ⑤ 荘園
⑥ 天平 ⑦ 大仏 (2) 防人

考え方 (1) ③ 607年、小野妹子を隋に派遣し、隋と対等の立場を主張する国

書を中国の皇帝に提出した。

⑤ 墾田永年私財法によって墾田の私有が認められたが、貴族や寺社が大規模に経営するものを荘園と呼ぶようになった。⑥ 奈良時代の文化は、聖武天皇の天平年間に最も栄えたので、天平文化という。

① 大化の改新への道のり P.34, 35

- 1 (1) 隋 (2) 大運河 (3) 唐
(4) 長安 (5) 新羅

【考え方】(1) 隋は大規模な土木事業や高句麗遠征などを行い、人々に重い負担をかけたために、内乱が起こってわずか40年たらずでほろんだ。

(2) 長江と黄河を結んで、中国の南北を結びつけた。

(3) 隋がほろんだ混乱のなかで、唐の高祖が帝位につき、長安を都とした。

(4) 東西30km、南北8.5kmあり、8世紀には人口が150万に達したといわれる。長安は、唐の時代に最も栄えた。

(5) 唐と結んだ新羅は高句麗をほろぼして朝鮮半島を統一したが、統一後は唐の影響を排除した。

- 2 (1) 摂政 (2) 蘇我氏
(3) 冠位十二階 (4) 十七条の憲法
(5) 遺隋使

【考え方】(1) 摂政とは天皇が幼いときや女性るとき、天皇にかわり政治を行う。(2) 蘇我氏は大和政権の財政や外交を担当していた豪族。渡来人を重く用い、仏教など大陸文化の吸収に努めた。日本古来の神を尊重しようとする物部氏などの有力な豪族をたおして政権内での地位を高めた。

(3) 氏・姓に関係なく色分けした冠をあたえ、朝廷での役人の序列

を示した。聖徳太子は、才能や功績のある人を用いようとした。

- 3 (1) 高句麗 (2) 律令制度
(3) 均田制 (4) 租・調・庸

【考え方】(1) 高句麗は朝鮮半島北部の国。後に唐と結んだ新羅にほろぼされた。(2)・(3)・(4) 日本はこれらの制度を手本とした。

- 4 (1) 蘇我氏 (2) 公地(・)公民
(3) 天皇 (4) 白村江の戦い
(5) 壬申の乱

【考え方】(1) 聖徳太子の死後、太子の遺児を殺すなど、その専横は目にあまったと「日本書紀」に記されている。

(2) 皇族・豪族が私有していた土地と人民を、国家の支配下に置くことにした。

(4) この敗戦によって、日本は朝鮮半島への足がかりを失った。それだけでなく、新羅・唐の来襲に備えて北九州に水城(幅60m、長さ1.0kmの堀と高さ13mの堤防からなる)が築かれた。

(5) 天智天皇の子の大友皇子(弘文天皇)と、弟の大海人皇子(天武天皇)が皇位をめぐる争った。

② 律令国家の成立 P.36, 37

- 1 (1) 平城京 (2) 奈良市
(3) 奈良時代 (4) 市
(5) 和同開珎

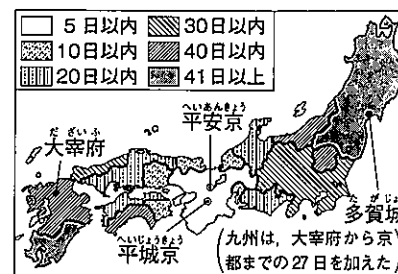
【考え方】(1)・(4) 中央を南北に走る朱雀大路は幅70~90mあり、その北端には平城京があってそこから向かって右が右京、左が左京だった。貴族の屋敷や大寺院が建ち並び、全国から集まる物品をあつかう市があった。

(5) 和同開珎には銀貨と銅貨があったが、流通したのは都のごく近辺だけだった。

- 2 (1) 口分田 (2) 租 (3) 調
(4) 庸 (5) 防人

【考え方】(1) 班田収授法によって農民などに支給された田のこと。終身使用が許された。

(2) 租は収穫の3%と後世の年貢に比べると比率は低かったが、調・庸は農民自身が都に運ばなければならず、農民にとっては重い負担だった。



▲調・庸の都までの運搬日数

(5) 唐・新羅に備えるために、北九州に配置された。おもに東国の農民が送られた。

- 3 (1) 大宝律令 (2) 唐
(3) 神祇官 (4) 太政官 (5) 国司

【考え方】(1) 701年は大宝元年にあたる。律はほぼ今日の刑法にあたる。令は国の制度や政治の決まりなどを定めたもので、今日の六法全書に近い。

(2) 唐は618年から907年まで約300年にわたって中国を支配した王朝。都の長安は国際都市として栄え、唐は東アジア世界の中心だった。

(3) 朝廷の祭祀をつかさどる職。

(4) 行政の最高機関。

- 4 (1) イ (2) 三世一身法
(3) 墾田永年私財法
(4) 公地(・)公民

【考え方】(2) 新たに開墾した土地を三代にわたり私有を認めた。

(3)・(4) 開墾した土地の永久私有を認めた。これにより大化の改新の公地・公民の原則はくずれることになった。

③ 国際的な文化の開花 P.38, 39

- 1 (1) 聖武天皇 (2) 天平文化
(3) 東大寺 (4) 「古事記」
(5) 「万葉集」

【考え方】(3) 正倉とは寺の倉庫のことで、東大寺の正倉は正倉院と呼ばれる。

(4)・(5) 「古事記」は712年、「日本書紀」は720年につくられた。「風土記」は各国の物産や伝承などを記したものの。「万葉集」は奈良時代末期に成立した。

- 2 (1) 仏教 (2) 東大寺
(3) 国分寺 (4) 大仏

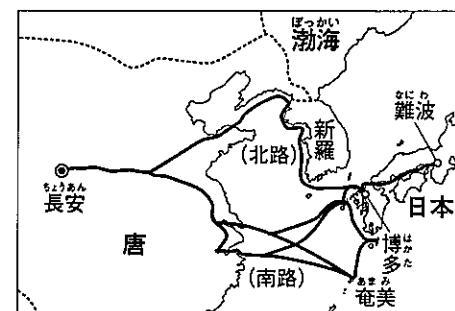
【考え方】(1) このような考えを鎮護国家という。

(2)・(4) 全国の国分寺の中心、総国分寺として平城京に建てられた。何度か兵火によって焼かれたが、奈良時代以来の貴重な文化財である仏像などを多数残している。

(3) 東京都国分寺市をはじめ、全国各地に「国分」とつく地名が名ごりとして残っている。

- 3 (1) 遣唐使 (2) 鑑真
(3) 唐招提寺 (4) 阿倍仲麻呂

【考え方】(1) 630年から894年までの間に、10数回の遣唐使が派遣された。はじめは朝鮮半島沿岸に沿って進む北路がとられたが、7世紀半ばに新羅との関係が悪化すると、東シナ海を横断する南路がとられるようになった。



▲遣唐使の航路

- 4 (1) 聖武天皇 (2) 正倉院
(3) 日本書紀 (4) 風土記
(5) 柿本人麻呂

【考え方】(5) 柿本人麻呂は下級の役人で生涯については不明である。「万葉集」に雄大・荘厳な歌を多数残している。

まとめのドリル

P.40, 41

- 1 (1) A 聖徳太子 B 中大兄皇子
(2) イ (3) 大化の改新
(4) 壬申の乱 (5) ① 大宝律令
② 太政官 ③ 国司

【考え方】(2) 冠位十二階、十七条の憲法、遣隋使、仏教の興隆を覚えておく。
(3) この政治の基本方針は、646年の「改新の詔」で示された。すなわち、①公地・公民、②中央集権へ向けての地方行政組織の確立、国・郡・里制、③戸籍の作成、班田収授法の実施、④税制(租・調・庸)の規定。

- 2 (1) 平城京 (2) 万葉集
(3) 東大寺 (4) 正倉院

【考え方】(1) 律令が整えられて中央集権が進むと、奈良の都は大いににぎわった。
(2) 天皇から庶民まで、幅広い階層にわたって作品が登場する。

- 3 (1) 遣唐使 (2) 和同開珎
(3) 租・調・庸 (4) 墾田永年私財法

【考え方】(4) 人口増加などにより口分田が不足したため、朝廷は開墾を奨励した。

4 古代国家のおとろえ

スタートドリル

P.44, 45

- 1 (1) 平安京 (2) 征夷大將軍
(3) 菅原道真 (4) 摂関政治
(5) 藤原道長

【考え方】(2) 東北地方の蝦夷を征討するため設けられた臨時の職。794年に設けられ、797年には坂上田村麻呂が征夷大將軍になった。

(4) 藤原氏は娘を天皇のきさきにし、生まれた子を次の天皇にした。そして、天皇が幼いときは摂政、成人になると関白として政治の実権をにぎった。

- 2 (1) 最澄 (2) 金剛峯寺
(3) 国風文化 (4) 紫式部
(5) 浄土信仰

【考え方】(1)・(2) 奈良仏教が地上の身分的差別を仏の世界にもちこんだのに対し、最澄・空海は仏の救いは人間をその出身や素質において区別しないことを主張した。
(4) 紫式部の長編小説の源氏物語は、天皇の子として生まれた光源氏を主人公としている。

- 3 (1) ① 平安 ② 桓武
③ 菅原道真 ④ 藤原道長
⑤ 空海 ⑥ 国風
⑦ 浄土信仰 (2) 阿弥陀堂

【考え方】(1) ④ 藤原氏の四男に生まれるが、兄たちが次々と死んだため摂関家の主流となり、1016年に摂政となった。
(2) 藤原頼通は宇治の別荘を平等院とし、中堂から左右にのびる阿弥陀堂が翼を広げた鳳凰に似ているところから鳳凰堂と名づけた。

1 平安京と摂関政治

P.46, 47

- 1 (1) 平安京 (2) 桓武天皇
(3) 平安時代 (4) 班田収授法
(5) 征夷大將軍

【考え方】(1) 1869(明治2)年まで日本の都として栄えた。
(5) 坂上田村麻呂の蝦夷に対する遠征で、朝廷の勢力は東北地方北部まで広がった。

- 2 (1) 最澄 (2) 天台宗
(3) 空海 (4) 真言宗

【考え方】(1)・(3) 最澄は伝教大師、空海は弘法大師。ともに桓武天皇の保護を受け、804年に唐にわたった。

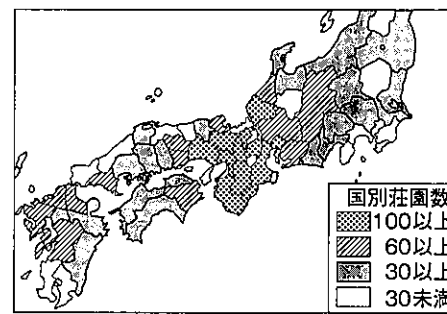
- 3 (1) 天皇 (2) ① 摂政
② 関白 (3) 摂関政治
(4) 藤原道長、藤原頼通

【考え方】(1) 女性は実家で子どもを産み育てる習慣があったので、実家である藤原氏と天皇の関係は強いものになった。

(2) ① 聖徳太子が摂政となったように、もともとは皇族が任じられる役職。皇族以外の摂政は藤原良房が最初になる。② 天皇より先に書類に目を通すことからついた役職。藤原基経が任じられたのに始まる。

- 4 (1) 荘園 (2) 貴族、寺社
(3) ① 不輸の権 ② 不入の権

【考え方】(1) 初期の荘園は開発領主が所有した。後期の寄進によって所有された荘園と区別することがある。



▲ 荘園の分布

(2) 貴族とは五位以上の地位にある者。藤原氏を中心とした中央の豪族に限られた。

2 文化の国風化

P.48, 49

- 1 (1) ① 唐 ② 宋
(2) ① 新羅 ② 高麗

(3) 菅原道真

【考え方】(1) 907年に唐がほろんだ後、中国は各地に割拠した武将による支配の時代(五代十国)を経て、960年に統一されて宋が建国された。

(2) ② 936年に朝鮮半島を統一した。
(3) この年に遣唐使に任命された菅原道真は、唐のおとろえを見て遣唐使の停止を建議した。

- 2 (1) 阿弥陀 (2) 極楽
(3) 浄土信仰 (4) 空也
(5) 阿弥陀堂

【考え方】(2)・(3) このころ、政治の乱れによる地方の治安の悪化、水害などの自然災害、天然痘の流行などにより、社会不安が広がった。人々は現世より来世での幸せを求め、浄土信仰がさかんになった。

(4) 出生地、出身地とも不明。若くして仏道に入り、阿弥陀念仏を唱えながら諸国を回り、橋をかけたり井戸をほるなどした。

- 3 (1) 唐(中国) (2) 大和絵
(3) 絵巻物 (4) かな文字
(5) ① 紫式部 ② 清少納言
(6) 古今和歌集 (7) 寝殿造
(8) 中尊寺金色堂

【考え方】(2)・(3) 唐風絵画に対する日本風絵画を総称して大和絵という。画題は文芸的なものが多く、物語のさし絵や絵巻物として独自の発展をとげた。
(5) ② 清少納言は、一条天皇のきさきの定子に仕え、そのころの生活や行事、事件などを随筆「枕草子」に書いた。

(6) ひらがなの成立は、漢詩、漢文学の全盛でおとろえていた和歌を復活させた。紀貫之らの編集ででき上がった「古今和歌集」はのちの和歌の手本とされ、小野小町、在原業平ら

が活躍した。
 (8) 平安中期から末期にかけて東北地方を支配した奥州藤原氏は、豊富な金の産出により財力をたくわえ、平泉(岩手県)に京都に負けない文化を栄えさせた。

まとめのドリル

P.50, 51

- 1 (1) ① 坂上田村麻呂
 ② 天台宗 ③ 空海 (2) ウ
 (3) 蝦夷 (4) 6年 (5) 延暦寺
 (6) 桓武天皇

考え方 (5) 延暦寺には全国から多くの僧が修行に訪れ、その中から、鎌倉時代に新仏教の開祖となった人々がいた。(6) 奈良時代の仏教は律令国家と強く結びついており、政治に口を出す僧もあらわれた。桓武天皇は奈良の寺社の平安京への移転を禁止して政教分離を図るとともに、最澄や空海を援助して、中国から新しい仏教を導入した。

- 2 (1) (例) 娘を天皇のきさきにして、その子を天皇とした。(2) 摂関政治
 (3) 平等院鳳凰堂 (4) 浄土信仰

考え方 (2) 藤原氏が摂政と関白の地位を独占するようになったのは10世紀半ば以降である。それ以前には摂政・関白が任命されない時期もあった。よって、摂関政治の確立は10世紀半ばと覚えておくとよい。

- 3 (1) 大和絵 (2) ① 古今和歌集
 ② 源氏物語 ③ 枕草子

考え方 (2) ② 源氏物語は、物語文学の最高峰として後世の文学に大きな影響をあたえた。

定期テスト対策問題

P.52, 53

- 1 (1) ① 摂関 ② 平安京

- ③ 蘇我 ④ 東大寺 ⑤ 遣隋使
 (2) A 藤原道長 B 桓武天皇
 C 中大兄皇子 D 清少納言
 E 聖武天皇 F 聖徳太子
 (3) 大宝律令 (4) 大化の改新
 (5) かな文字 (6) 十七条の憲法
 (7) F→C→E→B→D

考え方 (1) ① 藤原氏は摂政・関白の地位を独占し、政治の実権をにぎった。② 現在の京都市につくられた都。桓武天皇は律令政治を立て直すために都を移した。④ 仏教によって国を守ろうとした聖武天皇が平城京に建てた寺。正倉院や、鎌倉時代に建てられた南大門など、文化財の宝庫として有名である。⑤ 607年、第2回遣隋使として中国にわたり、隋の皇帝に国書をわたした。その国書には「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。つつがなきや」とあり、聖徳太子が中国と対等の国交を結ぼうとしたことがうかがえる。これに対して隋の皇帝の煬帝はこの国書を見て「無礼である」と立腹したと中国の歴史書に記されている。中国を中心とした東アジアの秩序の中では、天子と称せるのは中国皇帝ただ一人であった。

- (7) Dは、Aの時期とほぼ同じころのできごと。
 2 (1) 飛鳥文化 (2) 正倉院
 (3) シルクロード(絹の道)
 (4) 源氏物語 (5) 国風文化

考え方 (1) 聖徳太子が摂政として政治を行っていたころ、都は奈良盆地南部の飛鳥地方に置かれていた。(3) 8世紀ごろまで東西の交流に大きな役割を果たした交通路。正倉院には、遠くペルシャやインドなどから、この交通路を通ってもたらされた宝物も多くおさめられている。

(5) 国風文化は、はなやかな生活をするようになった貴族の文化である。その背景には、藤原氏をはじめ多くの貴族が広大な荘園を所有し、財政的に豊かになったことがあげられる。

5 武士の台頭と鎌倉幕府

スタートドリル

P.56, 57

- 1 (1) 武士 (2) 院政
 (3) 平清盛 (4) 鎌倉
 (5) 後鳥羽上皇

考え方 (2) 白河天皇は、8歳の堀河天皇に位をゆずり、院庁を開いて天皇の後見人となり、政治を行った。(4) 鎌倉は、源義朝が南関東で権威をふるったときの根拠地であり、源氏の守護神を祭る場所であった。また、東・北・西の三方は山に囲まれ、南は海であった。

- 2 (1) 御家人 (2) 二毛作
 (3) 定期市 (4) 法然
 (5) 平家物語

考え方 (1) 一般に、家来のことを家人と呼んだが、将軍との間に主従関係を結んだので御家人といわれた。(3) 寺社の門前や交通の要地など、特に人のよく集まる場所では、物資の交換もさかに行われ、このような場所では毎月決まった日に市が開かれるようになった。(4) 行いのできない一般の人々を救うことこそ阿弥陀仏の願いであるとして、「南無阿弥陀仏」を唱えれば、極楽往生ができること主張した。

- 3 (1) ① 平安 ② 鎌倉
 ③ 院政 ④ 平清盛 ⑤ 源頼朝
 ⑥ 執権 ⑦ 承久 (2) 武士

考え方 (1) ④ 平清盛は白河上皇の落としだねといわれ、若いときから出世し、やがて人臣最高の太政大臣となった。また、高倉天皇のきさきに娘の徳子を入れ、生まれた子を3歳で即位させた。安徳天皇である。⑤ 教科書にのっている似絵の「源頼朝像」は、源頼朝ではないかといわれているが、決め手となる証拠がない。⑦ 源氏の血統が絶えると、後鳥羽上皇は貴族政治の回復を図ろうとして兵をあげたが、幕府の大軍に敗れてしまった。

1 武士の成長

P.58, 59

- 1 (1) 棟梁 (2) 平将門
 (3) 源氏 (4) 院政 (5) 僧兵

考え方 (1) 集団の統率者のこと。平安時代末期から鎌倉時代にかけて、武士団の統率者をこう呼んだ。(5) 権勢をほこった白河上皇にも、思い通りにならないものが三つあった。それは、賀茂川の水(洪水)と双六の賽(さいころの目)と山法師(延暦寺の僧兵)であった。

- 2 (1) 保元の乱 (2) 平治の乱
 (3) 平清盛 (4) 日宋貿易

考え方 (1) 戦いは天皇方の勝利に終わった。

	天皇方	藤原方
天皇家	弟 後白河天皇	(鳥羽) 崇徳上皇
藤原氏	兄 忠通	(忠実) 頼朝
源氏	兄 義朝	(忠盛) 頼朝
平氏	甥 清盛	(忠盛) 頼朝

▲保元の乱の対立関係

(2) 保元の乱は皇室・朝廷の対立に武士がかり出された争いであった。

しかし、平治の乱は源氏と平氏の争いで、武士が主導権をにぎった。

- 3 (1) 平将門の乱
(2) 藤原純友の乱 (3) 奥州藤原氏

【考え方】(1) 関東地方はもともと平氏の一族が多く土着した地域であった。北条氏、千葉氏をはじめ、鎌倉幕府を開いた源頼朝に從った武士たちの多くは、平氏の一族であった。

(2) 伊予(愛媛県)の役人であった藤原純友は、任期終了後も現地に残り、瀬戸内海を中心にあらしまわる海賊となった。

(3) 東北地方で安倍頼時が反乱を起こした前九年の役(1051~62年)では、源頼義・義家父子は清原氏を助けて安倍氏をほろぼした。その後、清原氏一族の内乱である後三年の役(1083~87年)では、源義家は藤原清衡を助けて内乱を平定した。この藤原清衡が奥州藤原氏のもととなった。

- 4 (1) ① 白河 ② 院政
③ 荘園 (2) 平治の乱
(3) 日宋貿易

【考え方】(1) ① そのばく大な財力を背景とした白河上皇の政治は、混迷する社会に何ら秩序をもたらず、以後の政治の実権はしだいに武士の手ににぎられていくことになる。

(3) 清盛は、平家の経済的基盤を固めるために積極的な外交貿易政策をとった。私費で大輪田泊を修理し、兵庫の福原に別荘をかまえ、外国貿易に取り組んだ。

2 武家政権の成立

P.60, 61

- 1 (1) 御家人 (2) 御恩
(3) 奉公 (4) 封建制度

【考え方】(2) 頼朝は御家人に対して、本拠地の支配の保障(本領安堵)、新たな所

領の恩賞給付(新恩給与)を行った。

(3) これに対して御家人は、戦闘への参加、朝廷の警護などを行った。
(4) 封建制度の「封」とは、あたえられた領地という意味。

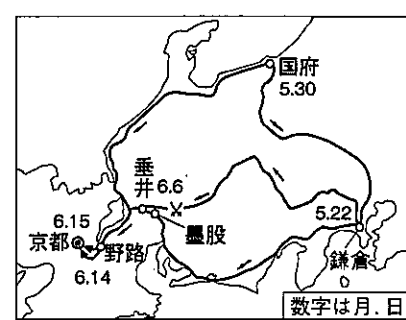
- 2 (1) ① 征夷大将軍 ② 鎌倉
(2) ① 守護 ② 地頭
(3) ① 侍所 ② 問注所

【考え方】(2) 守護は後代の大名とはちがって土地に対する権利は持たなかった。実際に土地を支配したのは地頭である。

- 3 (1) 北条氏 (2) 執権
(3) 承久の乱 (4) 後鳥羽上皇
(5) 北条政子 (6) 六波羅探題
(7) ア (8) 北条泰時

【考え方】(2) 侍所と政所の別当(長官)をかねた役職。北条氏が世襲した。

(4) 鎌倉幕府の成立により、全国は朝廷と幕府による二重支配の構造になっていた。後鳥羽上皇は、源氏の滅亡を好機として幕府をたおそうとしたが、朝廷軍は1か月もたずに幕府の大軍に敗れた。



▲幕府軍の進路(承久の乱)

(6) 承久の乱後、京都に六波羅探題を置いて執権に次ぐ要職とし、朝廷の監視と尾張以西の西国御家人の統制にあたらせた。

3 鎌倉時代の宗教と文化

P.62, 63

- 1 (1) 惣領 (2) 地頭 (3) 法然

- (4) 一遍 (5) 曹洞宗

【考え方】(1) 惣領とは、全体をまとめて管理することを意味し、転じて一族の長をこう呼ぶようになった。鎌倉時代には御家人を統制するために制度化され、惣領は一族の責任者として、領地の配分・戦闘の指揮・幕府の公務などを行った。

(2) 幕府が荘園に置いた役職は何かを考える。

- 2 (1) 新古今和歌集 (2) 平家物語
(3) 金剛力士像 (4) 絵巻物

【考え方】(1) 和歌は、なお公家社会の伝統的な文化の一つであった。後鳥羽上皇が藤原定家からに編さんを命じ、1205年に完成した。

(2) 平氏の栄華と没落を無常観をもって表現した軍記物。琵琶法師によって語りつがれ、広まった。

(3) 鎌倉時代の代表的建築物である、東大寺南大門におさめられている。

(4) 平安時代には「源氏物語絵巻」のように貴族のはなやかな生活がえがかれたが、鎌倉時代の絵巻物は、軍記物や新仏教の始祖の伝記などが題材(「一遍上人絵伝」など)になることが多かった。

- 3 (1) イ (2) ① 二毛作
② 定期市(市)

【考え方】(1) 承久の乱以後、幕府の勢力が強まると、荘園における地頭の勢力も強くなった。地頭は年貢を横取りしたり、農民に対し強制的に労役を課したりするようになった。荘園領主は、荘園の管理権や土地の半分を地頭にあたえるなどして、地頭の荘園侵略をくい止めようとしたが、かえって地頭の進出を許す結果となった。

(2) ① 1年に2回、同じ耕地でちがう作物を栽培すること。② 当時は月3回開かれる三斎市が多かつ

たが、四日市、五日市、六日市などの地名が残っているところもある。

- 4 (1) 運慶 (2) 似絵
(3) ① 浄土真宗 ② 臨済宗

【考え方】(2) 平安時代末期に起こり、鎌倉時代にさかんにえがかれるようになった。武士のほか天皇や高僧などもえがかれた。

(3) ① 親鸞は、苦しい修行などしなくても心の中で阿弥陀仏にすがれば極楽に往生できると説いて、庶民の中に多くの信者を得た。② 栄西は延暦寺で修行をしたが、中国にわたって臨済宗の強い影響を受けて帰国した。延暦寺は布教を禁止したが、栄西は旧仏教の勢力の弱い鎌倉で布教し、幕府の保護を受けた。

まとめのドリル

P.64, 65

- 1 (1) ① 保元 ② 平清盛
③ 源頼朝 ④ 御成敗(貞永)
(2) 源氏 (3) 白河上皇
(4) 源義朝 (5) 才 (6) 鎌倉時代
(7) イ

【考え方】(2) 源頼義・義家父子は東国の武士団を率いて、東北地方で起こった前九年の役・後三年の役で活躍した。

そのため、源氏と東国の武士団の間には主従関係が生まれた。

(3) 天皇の位をゆずった後も、院で政治を行った。そのために、摂関家の力がおとろえることになった。

(4) 源頼朝の父親。頼朝はこのとき子どもだったので、一命を助けられて伊豆に流された。

(5) 山口県下関市で行われた壇ノ浦の戦いである。

- 2 ① 浄土真宗 ② 一遍
③ 日蓮宗(法華宗) ④ 曹洞宗

【考え方】② 師念仏とは、念仏に合わせて楽

器などをならしつ、多くは輪にな
って踊るもの。

③ 他の宗派を激しく攻撃したため、
諸宗派や幕府から圧迫されたが、し
だいに地方武士や庶民の間に広まっ
ていった。

④ 禅宗の二つの宗派は、ともに宋
から伝えられた。

- 3 (1) 運慶(快慶)
(2) 東大寺南大門 (3) 平家物語
(4) 徒然草 (5) 似絵

考え方 (2) 大仏様という南宋の寺院建築の
様式でつくられた建物。色彩的には
簡素であるが、豪放で力強い建築物
である。

(4) 吉田兼好は鎌倉時代後期の歌人
で随筆家。「徒然草」は随筆で、動乱
期の人間や社会の様子を深く洞察し
ている。

6 東アジア世界とのかかわり

スタートドリル

P.68, 69

- 1 (1) 建武の新政 (2) 足利尊氏
(3) 日明貿易 (4) 琉球王国
(5) 応仁の乱 (6) 戦国大名

考え方 (3) 倭寇の進出に手を焼いた明は、
日本にその取りしまりを求めるとも
に、勘合を發行して貿易船の来航
も認めた。日明貿易のことを勘合貿
易ともいう。
(6) 幕府の権威がおとろえると、領
国の支配権を手中におさめた戦国大
名は、莊園領主のいっさいの権限を
否定し、あらたに家臣団を編成した。
畿内に有力な戦国大名がいなかった
のは、幕府や寺社勢力の力がおよび
やすく、農民の惣的結合や町衆の力

が強かったため。

- 2 (1) 絹織物 (2) 座
(3) 書院造 (4) 世阿弥

考え方 (1) 京都の絹織物は平安時代初期か
らつくられていたが、応仁の乱後に
西軍の陣地跡でつくられるようにな
ってからさかんととなり、名前も西陣
織とつけられた。福岡の博多織は鎌
倉時代からつくられるようになった。

- 3 (1) ① 鎌倉 ② 室町
③ モンゴル ④ 元寇
⑤ 足利義満 ⑥ 金閣 ⑦ 銀閣
(2) 武家

考え方 (1) ④ 1274年の文永の役、1281年
の弘安の役と、二度にわたる元軍の
九州北部への襲来を元寇という。

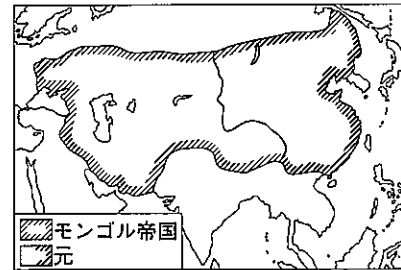
(2) 室町文化の特色は、公家と武家
の文化がとけ合った簡素で深みのあ
る文化である。

11 モンゴルの襲来と日本 P.70, 71

- 1 (1) チンギス・ハン
(2) モンゴル帝国
(3) フビライ・ハン (4) 元

考え方 (1) モンゴル部族の長の子として生
まれるが、父がタタール人に殺され
て以来、苦難の生活を続けた。40歳
余で王におされ、チンギス・ハンと
名のと、これまでの遊牧民の民族的
・血縁的な組織を解体し、軍事的、
行政的な集団に編成がえし、モンゴ
ルを統一した。

(2) モンゴル民族は、中国北方に住
んでいた遊牧民族で、騎乗術に優れ
ていた。13世紀はじめにチンギス・
ハンによって民族が統一されると、
破竹の勢いで各地を征服し、アジア
からヨーロッパにまたがる空前の大
帝国を築いた。



▲モンゴル帝国

(3)・(4) チンギス・ハンの孫で5代
皇帝のフビライ・ハンは、中国南部
に勢力を広げ、都をカラコルムから
大都(今のペキン)に移し、1271年、
国号を「元」と定めた。

- 2 (1) 高麗 (2) 北条時宗
(3) 文永の役 (4) 弘安の役
(5) 徳政令

考え方 (2) 文永の役の後、元の再度の襲来
に備えて博多湾に防塁を築くなど、
北九州の防備を固めさせた。
(5) 御家人は、ただでさえ分割相続
で領地が縮小し、生活が苦しくなっ
ていたところに元寇の出費が追い打
ちをかけた。そのため領地を質入れ
したり、売ったりする御家人が増え
たが、恩賞は不十分なものだったの
で、幕府に対する不満が高まった。

- 3 (1) ㉠ チンギス・ハン
① フビライ・ハン ㉡ 徳政令
(2) 鎌倉時代 (3) 北条氏
(4) ① 北九州 ② 集団
③ 暴風雨 (5) 元寇 (6) ウ

考え方 (3) ときの執権は、8代にあたる北
条時宗であった。
(4) ② 日本の武士は一騎打ちで戦
うことが普通だったが、元軍の組織
的な集団戦法の前に苦戦した。
③ 暴風雨で壊滅したとも、うちわ
もめで引き上げたとも言われている。
弘安の役では、防塁などで上陸を阻
止された元軍が船に引き上げたところ
に暴風雨があって壊滅したと伝え

られている。のちにこの暴風雨は
「神風」といわれるようになった。

2 南北朝の争乱と室町幕府 P.72, 73

- 1 (1) 足利尊氏 (2) 建武の新政
(3) 吉野 (4) 60年間
(5) 足利義満

考え方 (1) 楠木正成は河内(大阪府)の豪族、
幕府からは「悪党」といわれた非御家
人の武士だった。

(2) 公家と武家をうまく取り合わせ
た政治をめざしたが、実際には公家
中心の政治であった。

(5) 足利尊氏の孫で3代将軍。義満
のときが室町幕府の全盛期。

- 2 (1) 管領 (2) 鎌倉府
(3) 侍所

考え方 (1) 将軍につぐ重職として管領が置
かれたが、執権に比べると権限が弱
く、斯波・畠山・細川の足利一族三
氏が任じられた(三管領)。

(3) 侍所長官は管領につぐ実権を持
ち、赤松・山名・一色・京極の四家
があたった(四職)。

- 3 (1) ① 足利尊氏 ② 足利義満
(2) ① 管領 ② 守護
③ 侍所

考え方 (1) ② 義満は、京都室町の地に賀
茂川の水を引いて池をつくり、公家
や守護大名に名木を植えさせ、四季
おりおりの花を楽しめる大邸宅をつ
くった。そのため、ここが「花の御
所」と呼ばれ、室町幕府の名も生ま
れた。

(2) ② 守護は、地頭や国内の武士
を家臣とし、領国を経営した。その
ため、軍事警察権を持つ単なる地方
官から、領国支配権をにぎる封建領
主に変質していった。

- 4 (1) 後醍醐天皇 (2) 楠木正成

- (3) 吉野 (4) 守護大名

考え方 (1) 当時、朝廷は皇位継承と皇室領相続をめぐって大覚寺統と持明院統に分裂、対立しており、これに幕府が干渉していた。大覚寺統の後醍醐天皇は幕府の干渉を排除し、天皇親政による古代律令制国家を再現しようとしていた。

③ 東アジアの動きと戦国時代 P.74, 75

- 1 (1) 倭寇 (2) 勤合
(3) ハングル (4) 琉球王国

考え方 (1) 北九州や瀬戸内海の水軍と呼ばれる人々は、漁業や交易を行うかわら、武装して沿岸地方を襲うことがあった。元寇以後、かれらの武装交易船が朝鮮半島沿岸を襲うようになり、倭寇と呼ばれておそれられた。(3) 日本でかな文字がつけられたように、漢字だけでは表現できないものを補う目的でつけられた。朝鮮語で「大いなる文字」という意味。(4) 中国に対して朝貢をしていたが、江戸初期に島津藩に征服され、日本と中国に両属する形となった。

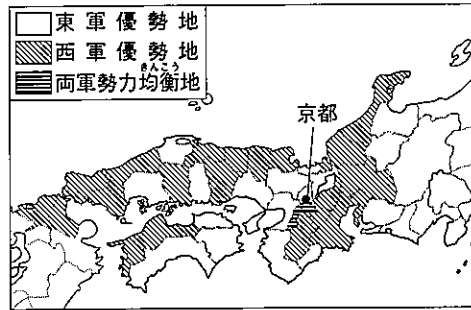
2 (1) 明 (2) 高麗
(3) 中継貿易 (4) 北海道
(5) 城下町

考え方 (1) 14世紀半ばに、元の厳しい支配に対して各地に漢民族の反乱が起こり、ついに1368年に南京を都に明が建国された。(2) 元に服従していた高麗は、元がモンゴルに退いたあとも元側についていた。倭寇などと戦って名声をあげていた李成桂は、親元派を追放して高麗王朝をたおした。これが朝鮮国である。

3 (1) ① 山名氏 ② 戦国大名
(2) 足利義政 (3) 応仁の乱

- (4) ウ (5) 下剋上
(6) 分国法(家法)

考え方 (3) 將軍のあとつぎ争いに有力守護大名である畠山氏・斯波氏のうちわもめがからみ、多くの守護大名が東軍(細川氏)と西軍(山名氏)に分かれて、京都を中心に11年間も戦った。



▲ 応仁の乱の東西両軍の勢力範囲

(6) 戦国大名は、家臣の統制や農・商・工業者の統制にあたって、よってたつべき規範が必要となり、分国法をつくった。

④ 民衆の成長と室町文化 P.76, 77

- 1 (1) 絹織物 (2) 6回
(3) 酒屋 (4) 座 (5) 港町

考え方 (1) 陶器づくりがさかんだったのは、瀬戸(愛知県)などである。(2) 室町時代になると、市は大寺院の門前など各地で開催され、日数も多くなった。市では輸入された宋銭や明銭も用いられた。(3) 問(問丸)と馬借は運送業者。

- 2 (1) 二毛作 (2) 惣
(3) 寄せ (4) 土一揆

考え方 (1) 鎌倉時代に農業の先進地域であった西国で始まり、各地に広まった。(2) 農民は村ごとに自治的な組織をつくり、戦乱に際しては自衛もするようになった。

- 3 (1) ① 銀閣 ② 足利義政
③ 書院造 (2) ① 水墨画

② 雪舟

考え方 (1) ① 正式には慈照寺銀閣。足利義政の東山山荘として建てられた。(3) 同じ境内にある東求堂の同仁斎という部屋は書院造の部屋として教科書などに取り上げられている。(2) ② 1467年、48歳で明にわたり、3年後に帰国して水墨画を大成した。禅宗の僧でもあった。

4 イ・オ

考え方 アは奈良時代、聖武天皇のころ。イの戦火とは応仁の乱のこと。力をたくわえた守護大名の中には、都落ちした公家や僧を積極的にむかい入れ、文化の吸収に努める者もいた。ウは飛鳥時代、聖徳太子のころ。エは平安時代の国風文化の発展の様子。オは室町幕府が京都に置かれたため、公家文化と武家文化の融合が進んだ。また、日明貿易や倭寇の活動などによって日本と大陸の交通がさかになり、中国や朝鮮の影響を受けた国際色豊かな文化であった。力は鎌倉文化。

まとめのドリル

P.78, 79

- 1 (1) ⑦ 後醍醐天皇
① 足利義満 ② 土一揆
③ 応仁 (2) 建武の新政
(3) 南北朝時代 (4) ① 管領
② 守護大名(守護) (5) 勤合貿易
(6) ① 下剋上 ② 分国法(家法)

考え方 (1) ⑦ 倒幕をくわだてたために隠岐に流されていたが脱出し、鎌倉幕府滅亡後、建武の新政を行った。② 当時はまだ農民と武士の身分は区別されておらず、ふだんは農業を行いながら、いざというときには武装して戦う人々が多かった。土一揆はこのような人々を中心になった。

(4) ① 室町幕府の將軍を補佐する役職。足利氏の一族である斯波氏・細川氏・畠山氏が交替で務めた。

- 2 (1) 座 (2) 酒屋 (3) 城下町
(4) 堺 (5) 町衆

考え方 (1) 寺社などの保護を受けていた。(3) 山口は大内氏、小田原は北条氏の城下町として栄えた。(5) 堺・博多・京都などでは有力な商人が寄合を組織して自治を行った。

3 (1) 東山文化 (2) 書院造
(3) 雪舟 (4) 世阿弥
(5) 御伽草子

考え方 (4) 足利義満の援助を受けた。(5) 室町時代につくられた童話や寓話などの総称。「ものぐさ太郎」や「浦島太郎」などがある。

定期テスト対策問題 P.80, 81

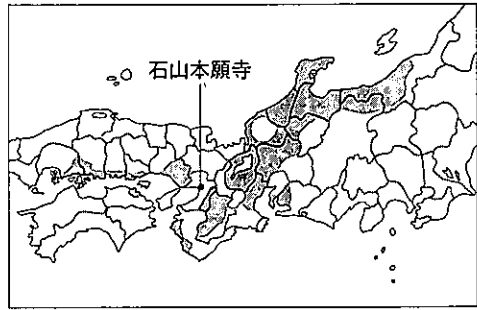
- 1 (1) ① 地頭
② 御成敗式目(貞永式目)
(2) A 源頼朝 C 後醍醐天皇
D 足利尊氏 E 足利義満
(3) 執権 (4) 六波羅探題
(5) 元寇 (6) 建武の新政
(7) 勤合

考え方 (1) ① やがて、莊園を侵略して年貢を横取りしたり、自分の領地のよようにする者もあらわれた。(4) 朝廷の監視と西国御家人の統率のために設置された。(7) 倭寇と区別するために用いられ

- た合い札。
- 2 (1) 封建制度 (2) 道元
(3) 酒屋 (4) 一向一揆
(5) 下剋上

考え方 (1) 封建制度とは、古代中国の周王朝のときに、皇帝が諸侯に領地をあたえたところから成立した言葉。(4) 浄土真宗(一向宗)の信徒は、総

本山である石山本願寺を中心に団結し、各地で一揆を起こした。



▲一揆の発生地域

- ⑧ (1) 平家物語 (2) 雪舟
(3) ① 似絵 ② 書院造

☞ 考え方 (1) 琵琶法師とは、琵琶を奏でる盲目の芸人。僧のような衣服を着ていたので、琵琶法師と呼ばれた。

7 ヨーロッパ人との出会いと天下統一

スタートドリル

P.84, 85

- ① (1) プロテスタント (2) コロンブス
(3) ポルトガル人 (4) 室町幕府
(5) 北条氏 (6) 朝鮮

☞ 考え方 (1) ドイツ皇帝がルター派を禁止すると、ルターを支持する諸侯は「信仰は個人の自由であって権力によって支配すべきでない」と抗議(プロテスト)したので、ルター派などの新教徒をプロテスタントというようになった。
(6) 豊臣秀吉は明を征服するために、朝鮮にその先導を求めた。しかし、朝鮮がこれを拒否したので、軍を朝鮮に派遣することになった。

- ② (1) ルネサンス (2) 楽市・楽座
(3) 刀狩 (4) 干利休

☞ 考え方 (1) ルネサンスは日本語で「文芸復興」と訳されるが、「再び生まれるこ

と」という意味である。この時期のヨーロッパの文化人は、新しい時代が来ることを意識し、その模範となるのが古代ギリシャ・ローマの文化であり、それを復興しようとしたとき、その多くをイスラム文化から学んだ。ギリシャ・ローマの文化を継承したのがイスラム文化だったからである。ルネサンスがイタリアから起こったのは、イタリアがイスラム世界と多く接触していたからである。

- ③ (1) ① 室町 ② 安土桃山
③ 鉄砲 ④ キリスト
⑤ 織田信長 ⑥ 豊臣秀吉
⑦ 桃山 (2) 豪華

☞ 考え方 (1) ② 織田信長が安土城、豊臣秀吉が伏見城(のちの桃山城)を築いたので、信長・秀吉の時代を安土桃山時代という。⑤ 16歳で父のあとをついだ信長は、1582年に本能寺の変で自害するまで、戦いづく戦いであった。
(2) 大阪城や姫路城は、雄大な天守閣を持つ城であった。また、城・邸宅のふすまや屏風などには、障壁画と呼ばれる豪華な絵がえがかれた。

① 7~16世紀の世界

P.86, 87

- ① (1) イタリア (2) ドイツ
(3) カルバン (4) プロテスタント
(5) イエズス会

☞ 考え方 (1) 当時のイタリアは、フィレンツェ、ベネチアなどの諸都市が東方貿易で栄えていた。
(2) ルターは免罪符の発売を進めるローマ教皇とローマ教会を批判したために、ローマ教会から破門されたが、支持者の諸侯にかくまわれた。
(3) お金をかせぐことは神の意志にかなうことだとしたために、商工業

者に支持された。

(5) プロテスタントに対するカトリックの反撃を、最も戦闘的に行ったのがイエズス会であった。イエズス会は、スペインの貴族・軍人であったロヨラによってつくられた。

- ② (1) アラビア (2) ムハンマド
(3) アラー (4) エルサレム
(5) 十字軍

☞ 考え方 (4) 11世紀後半、セルジューク・トルコがエルサレムを占領し、キリスト教徒を迫害したとされるが、セルジューク・トルコの圧迫を受けていた東ローマ帝国(ビザンツ帝国)からの援助の要請をローマ教皇が受けたことが、十字軍派遣の原因である。

(5) 最初、十字軍はエルサレムを奪回し、キリスト教徒の王国を建設したが、すぐにイスラム教徒にうばいかえされ、その後、キリスト教徒による聖地回復はならなかった。

- ③ (1) ① コロンブス
② バスコ・ダ・ガマ ③ マゼラン
(2) ア (3) イ (4) スペイン
(5) ① インカ帝国
② アステカ帝国 (6) ポルトガル

☞ 考え方 (1) 西インド諸島(カリブ海の島々)に到着したのがコロンブス、インド航路発見がバスコ・ダ・ガマ、世界周航に出発したのがマゼラン。
(4) スペインの征服者たちは、アメリカ大陸に栄えた文明をほろぼし、宝物をうばった。

② 織田信長の統一事業

P.88, 89

- ① (1) ポルトガル人 (2) 堺
(3) イエズス会 (4) キリシタン大名
(5) 南蛮貿易

☞ 考え方 (1) 中国との貿易を行っていたポルトガル船が暴風雨によって流され、

種子島に漂着した。

(3) ザビエルはスペイン人で、インドで布教中に会ったアンジローという日本人の案内で日本を訪れ、鹿児島に着いた。

(5) 中華思想では中国を最も文化の進んだ国とし、南の異民族を南蛮と呼んだ。南から中国を訪れたヨーロッパ人は南蛮人と呼ばれたのである。

- ② (1) 楽市 (2) 楽座 (3) 関所
(4) 延暦寺 (5) 石山本願寺

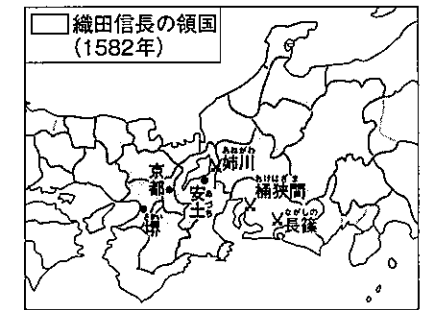
☞ 考え方 (1)・(2)・(3) これらの政策によって信長の城下町だった岐阜や安土には全国から商人や物産が集まり、大変なにぎわいを見せた。

(4) 当時の延暦寺は、多数の僧兵を抱える一大軍事集団だった。

- ③ (1) A 桶狭間 B 室町幕府
C 長祿 D 安土 (2) ア
(3) 足利尊氏 (4) ウ (5) 琵琶湖
(6) 場所：京都 家臣：明智光秀

☞ 考え方 (1) A 今川義元の3万の大軍を2千の兵で奇襲し、義元を殺した。
B 信長は最初、足利義昭を助けて入京し、義昭を15代の将軍にしたが、信長の勢力が強くなることを恐れた義昭が各地の大名と結んで信長に敵対しようとしたため、義昭を京都から追放した。

(6) 信長はわずかな家臣を従えたのみで京都の本能寺に宿泊していた。



▲織田信長の領国

- 1 (1) 明智光秀 (2) 大阪 (3) 関白
(4) 北条氏

【考え方】(3) 征夷大將軍は源氏の血筋のものがつきまじりだった。低い身分から出世した秀吉は、源氏など由緒ある血筋を名乗ることができず、朝廷から豊臣という姓をもらった。

(4) 伊勢新九郎長氏という牢人(主君を持たない武士)が、実力だけで戦国大名にのし上がった。美濃(岐阜県)の斎藤道三とともに、下剋上の典型といわれる。鎌倉時代の北条氏と区別して、後北条氏といわれることもある。

- 2 (1) 桃山文化 (2) 天守閣
(3) 狩野永徳 (4) 出雲の阿国
(5) 千利休

【考え方】(2) 城は平地につくられるようになり、天守閣は領地のあらゆるところから見える支配の象徴となった。

(3) 代表作に「唐獅子図屏風」がある。
(5) 千利休は堺の豪商であり、秀吉に仕えた。後に秀吉の怒りにふれ、切腹を命じられた。

- 3 (1) 太閤検地(検地) (2) 石高
(3) 農民 (4) 刀狩 (5) 一揆
(6) 兵農分離 (7) 荘園制度
(8) 明 (9) 豊臣秀吉

【考え方】(6) それまでは、武士は農村で半農の生活をしてきたが、刀狩によって武器をうばわれて農民になる者、大名の家臣として城下町に住む者にはっきりと身分が分かれた。

(7) 土地の支配関係が検地によって明らかにされたことにより、荘園制度は消滅した。

- 1 (1) ① 種子島 ② 安土城
③ 本能寺 ④ 大阪城 (2) 鉄砲

- (3) (フランシスコ・)ザビエル
(4) 南蛮貿易 (5) D 武田氏
F 北条氏 (6) 朝廷(天皇)
(7) 李舜臣

【考え方】(1) ③ このできごとの次の年には、秀吉が統一事業を引きついでいることに注目する。

(7) すぐれた戦術と、自身で考案した亀甲船を使って日本の水軍を破った。

- 2 (1) 楽市・楽座 (2) 太閤検地
(3) 刀狩令 (4) 秀吉

【考え方】(4) 信長は、仏教勢力をおさえるため、終始キリスト教を保護する政策をとった。

- 3 (1) ルネサンス (2) イタリア
(3) 宗教改革 (4) プロテスタント
(5) イエズ会

【考え方】(3) 宗教改革以後、ヨーロッパ各地ではカトリック教徒とプロテスタントの間で激しい宗教戦争が起こった。ドイツ・オランダ・イギリスやヨーロッパ北部の国々ではプロテスタントが支配的になり、スペイン・ポルトガルではカトリックの勢力が強かった。これら二つのグループの国々はこの後長く対立することになる。

8 江戸幕府の成立と鎖国

- 1 (1) 関ヶ原の戦い (2) 江戸
(3) 武家諸法度 (4) 参勤交代
(5) 朱印船貿易 (6) 天草・島原一揆

- (7) 琉球王国

【考え方】(7) それまで独立国であった琉球王国は、江戸時代初期に薩摩藩に征服され、高い率の年貢を取りたてられ、苦しい生活をしいられるようになった。

- 2 (1) 武士 (2) 本百姓
(3) えた

【考え方】(1) 武士は全人口の約7%しかいなかったが、支配階級として名字・帯刀(刀を持つこと)の特権を持ち、武士に無礼を働いた農民や町人に対して、「切り捨てご免」が許された。

- 3 (1) ① 江戸 ② 徳川家康
③ 武家諸法度 ④ 島原・天草
⑤ 鎖国 ⑥ ひにん ⑦ 本百姓
(2) 譜代大名

【考え方】(1) ⑤ 鎖国によって、その後200年も戦争のない時代が続き、国内の産業や文化が発達した。しかし、世界の様子を知るのは長崎などに限られ、世界の流れから取り残されてしまった。

1 江戸幕府の成立としくみ P.98, 99

- 1 (1) 関ヶ原 (2) 江戸 (3) 大名
(4) 大名 (5) 参勤交代

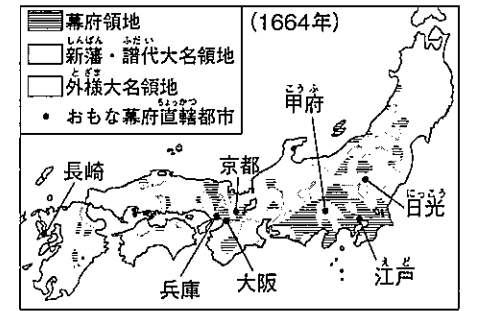
【考え方】(1) 天下分け目の戦いと呼ばれたが、わずか半日で徳川方が勝利した。
(2) 家康は、もとは三河(愛知県東部)の戦国大名であったが、秀吉が北条氏をほろぼした後に、領地を関東に移され、江戸を本拠地とした。
(3) 旗本・御家人は1万石未満の領地を持つ將軍の直接の家臣。旗本は將軍にお目見えできる身分、御家人はお目見えできない身分であった。

- 2 (1) 老中 (2) 勘定奉行
(3) 寺社奉行 (4) 町奉行
(5) 京都所司代

【考え方】(4) 幕府の直轄地だった大きな都市にも奉行が置かれた。
(5) 幕末には朝廷を守るために、京都に京都守護職が置かれた。

- 3 (1) 幕領 (2) 4
(3) ① 譜代大名 ② 外様大名
③ 親藩 (4) ① 藩 ② 近い
③ 遠い (5) イ (6) 幕藩体制

【考え方】(3) 幕府はたくみな大名の配置によって、江戸の防衛体制を築いた。



▲幕府と大名の領地

2 さまざまな身分とくらし P.100, 101

- 1 (1) 武士 (2) 本百姓 (3) 職人
(4) 男 (5) 儒教

【考え方】(2) この中から、庄屋(名主)、組頭、百姓代の村役人が選出された。

(4) 長男がすべてを相続し、次、三男や女には相続権はなかった。

- 2 (1) 年貢米 (2) 慶安の御触書
(3) 五人組 (4) ひにん

【考え方】(1) 幕府は、農地に米以外の作物を勝手につくることを禁止した。
(4) 住む場所や職業、衣服まで厳しく制約を受けた。差別は明治以降も残り、現在も大きな問題である。

- 3 (1) ① 庄屋(名主) ② 組頭
③ 百姓代 ④ 村役人 (2) 50
(3) ウ (4) 米

【考え方】(1) ②と③は逆でもよい。
(2) 年貢の割合は五公五民が通常だったが、江戸時代後期になると、

六公四民(年貢の率60%)や七公三民(同70%)ということもあった。

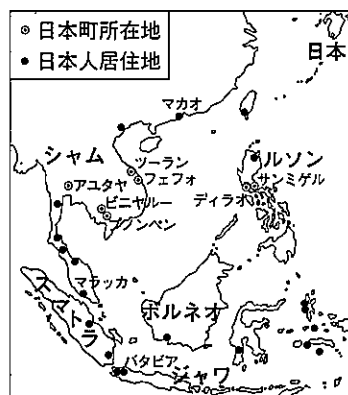
- 4 (1) 農民 (2) 7
(3) 町人

考え方 (3) 町人身分の中でも、家持ちが町政をになった。

3 貿易の復興から鎖国へ P.102, 103

- 1 (1) 朱印船 (2) 日本町
(3) 長崎 (4) オランダ

考え方 (1) 渡航許可証を朱印状といって、それを所持する公式の貿易船を朱印船と呼んだ。
(2) 博多や堺の大商人は、さかんに東南アジアに貿易船を派遣し、現地に住みつく人々も多かった。



▲日本人の海外発展

- 2 (1) 禁教令 (2) 島原・天草一揆
(3) 絵踏 (4) 鎖国

考え方 (2) 約4か月間も抵抗を続け、幕府軍を苦しめた。幕府はカトリックと敵対するオランダ船に大砲をうたせることまでした。此一揆以後、幕府は禁教を徹底させる方針をとった。
(3) 踏絵ともいう。キリストや聖母マリアのすがたを刻んだものを足で踏ませて、キリスト教徒であるかどうか判断した。

- 3 (1) ① イギリス ② スペイン
③ ポルトガル ④ オランダ

- (2) 天草四郎(益田時貞) (3) 出島

考え方 (1) ① イギリスはオランダと同じ新教国で、イエズス会のように布教活動は行わなかったが、オランダとの貿易競争に敗れて撤退した。
(3) 幕府は、外国人と日本人との接触をできるだけさせないように、橋一本でつながる人工島をつくった。

- 4 (1) 清 (2) (朝鮮)通信使
(3) 薩摩藩 (4) アイヌ

考え方 (1) 中国では明がほろび、満州族の清が支配していた。
(3) 薩摩藩は密貿易による利益を求めて、征服後も琉球王国が清にも服属して朝貢することを認めた。
(4) 17世紀後半には、アイヌの首長シャクシャインを中心とした大規模な反乱が起きたが、松前藩のだまし討ちにあって鎮圧された。

まとめのドリル P.104, 105

- 1 (1) ① 関ヶ原 ② 朱印船
③ 武家諸法度 ④ 参勤交代
⑤ 島原・天草一揆 ⑥ 鎖国
(2) 日本町 (3) 幕藩体制
(4) ① オランダ ② 長崎

考え方 (1) ④大名の石高によって供をする人数などに決まりがあり、大名には大きな負担だった。幕府は大名の財政を圧迫することで、徳川氏に反抗する力を持たせないようにした。

(2) 鎖国の完成によって日本人の海外渡航が禁止され、海外の日本人の帰国も禁止されると、東南アジアの日本町はさびれていった。

- 2 (1) ① 老中 ② 勘定奉行
(2) 譜代大名 (3) 京都所司代

考え方 (1) ① 定員は4~5名であった。
② 勘定奉行は郡代や代官を通じて幕府領の行政を行った。

- (3) 大阪城代にも西国大名の監視の役割があった。

- 3 (1) 絵踏(踏絵) (2) (朝鮮)通信使
(3) 慶安の御触書 (4) 五人組

考え方 (2) 朝鮮との交流は、対馬藩の宗氏が中心となって行った。
(4) 農村では、犯罪者や村のしきたりなどにそむいた者を「村八分」と称して、火事と葬儀を除いて仲間はずれにする、という制裁を行った。

定期テスト対策問題 P.106, 107

- 1 (1) ① 徳川家康 ② 島原・天草
(2) 朱印船貿易 (3) キリスト教
(4) 国：オランダ 都市：長崎

考え方 (4) 新教国のオランダは、キリスト教の布教をせず、貿易のみを行ったので、来航を許された。幕府はオランダ商館に海外情報の提供を義務づけ、長崎奉行を通じて幕府に報告書を提出させた。これを「オランダ風説書」という。これらによって、幕府は鎖国中も世界の情勢をよく知っていた。しかし、この情報は庶民はもちろん大名にも知らせることはなかった。

- 2 (1) ① 武家諸法度
② 慶安の御触書 (2) 参勤交代
(3) 年貢(米)

考え方 (1) ①は大名の統制、②は農民の統制のために定められた。しかし、最近の研究では、幕府は慶安の御触書を出さなかったともいわれている。
(2) 各藩では江戸に屋敷を構え、藩主の参勤の際の宿舎にしたほか、多数の藩士を常駐させた。この江戸での消費生活は、藩の出費の半分近くをしめるほどで、藩の財政に大きな負担をかけた。

- 3 (1) ① 織田信長 ② 豊臣秀吉
(2) ① 種子島

- ② (フランシスコ・)ザビエル
③ 南蛮 (3) 楽市・楽座
(4) ① 太閤検地 ② 刀狩
(5) 桃山文化 (6) ウ

考え方 (5) 秀吉が築いた伏見城あたりの、後の地名からつけられた。伏見城は当時の文化を代表する建築物で、現在の京都市伏見区桃山にある。
(6) 雪舟が水墨画を大成したのは、室町時代の東山文化のころである。

9 産業の発達と幕府政治の動き

スタートドリル P.110, 111

- 1 (1) 徳川綱吉 (2) 長崎
(3) 享保 (4) 公事方御定書

考え方 (1) 3代将軍徳川家光の子。今の群馬県館林10万石の領主であったが、兄の4代将軍綱吉に子がなかったため、1680年に5代将軍となる。「生類憐みの令」を出し、現在の東京都中の野区役所の近くに犬小屋を建てて野犬を飼ったので、犬公方と呼ばれた。
(2) 新井白石は朱子学者で、甲府藩主(のちの6代将軍)徳川家宣の先生となったので、6代将軍、7代将軍に仕えた。長崎での貿易の制限を行い、金銀の海外流出を防いだりしたので、新井白石の政治を当時の年号をとって「正徳の治」という。

(3) 徳川吉宗は紀伊藩主の三男に生まれ、越前国(福井県)丹生3万石の領主となった。しかし、二人の兄が次々と死んだため、紀伊55万石の5代藩主となった。また、7代将軍徳川家継も子がなくて死んだため、8代将軍となった。

- 2 (1) ① 千鶴こき (2) 井原西鶴

- (3) 松尾芭蕉 (4) 菱川師宣
(5) 株仲間 (6) 百姓一揆

考え方 (2) 井原西鶴は大阪の町人出身で、最初は俳諧を学び、のちに浮世草子の作家となった。

(3) 松尾芭蕉は伊賀上野(三重県)の武士の出身。若いころ江戸に出て町人となり、俳諧師となった。

- 3 (1) ① 江戸 ② 徳川綱吉
③ 徳川吉宗 ④ 元禄 (2) 町人

考え方 (1) ④ 元禄文化によって文化の大衆化が進み、文化はようやく支配階級の独占物としての性格から脱却して、広く民衆の共有財産となった。

1 産業の発達 P.112, 113

- 1 (1) 新田 (2) 干鯛 (3) わた
(4) いわし漁 (5) 瀬戸内地方

考え方 (1) 全国各地に「〇〇新田」という地名が残っているのは、江戸時代の開発の名ごりである。この結果、全国の耕地面積は、江戸時代初期の2倍にも広がった。

(2) 干鯛とは、干した鯛のこと。草木灰は鎌倉時代のころから使われていた。

(3) 農業の先進地域である近畿・東海地方から始まった。

(4) 地引き網が使われた。

- 2 (1) 佐渡 (2) 生野 (3) 足尾
(4) 貨幣 (5) 特産品

考え方 (1)・(2)・(3) 重要な鉱山は幕府の直轄地にされた。

(4) 江戸には銀座・銀座などの貨幣を鋳造するところが生まれた。今の東京都中央区銀座は、当時、銀座が設けられたところからついた地名。

(5) 財政難で苦しんだ各藩では、このような特産品の生産を奨励し、税を取って収入のたしにした。

- 3 (1) 2 (2) A 備中ぐわ
B 千歯こき (3) あい、べにばな

考え方 (2) A 備中ぐわは刃が3本ないし4本あり、形も地域によって各種あった。水田だけでなく、畑を深く耕すためにも使われた。B 千歯こきの発明で、稲の脱穀作業が倍増した。

(3) あいは阿波(徳島県)、べにばなは出羽(山形県)が有名。

- 4 (1) 江戸 (2) 西廻り航路
(3) 門前町 (4) 両替商
(5) 株仲間

考え方 (1) 最も重要な交通路だった東海道は、江戸と京都を結び、53の宿場があった。

(3) 江戸時代になると各地の寺社への参詣者も増え、門前には宿泊客のための旅館などを中心に町が形成された。伊勢神宮の山田(今の伊勢市)、善光寺の長野、金刀比羅宮の琴平などが有名。

2 都市の繁栄と元禄文化 P.114, 115

- 1 (1) 江戸 (2) 大阪 (3) 蔵屋敷
(4) 天下の台所 (5) 西陣織
(6) 江戸・大阪・京都

考え方 (1) 「将軍のおひざもと」と呼ばれ、にぎわった。

(2)・(3)・(4) 大阪は豊臣氏の城下町として栄えて以来、日本じゅうの物産の集まる集積地となっていた。

- 2 (1) 町人 (2) 上方
(3) 元禄

考え方 (1) 平和な時代が続き、商業が発達すると大きな富をたくわえた大商人があらわれた。

(2) 朝廷の所在地から上下を見る見方によって、京都や大阪は上方と呼ばれた。京都から江戸に旅すること

は「下る」といわれる。「上京」というのもこの名ごり。

(3) 特に商業の発達した大阪が中心となった。

- 3 (1) 井原西鶴 (2) イ
(3) 浮世草子 (4) 松尾芭蕉
(5) 奥の細道 (6) ウ
(7) 人形浄瑠璃 (8) 歌舞伎
(9) 菱川師宣 (10) 浮世絵

考え方 (3) 浮世草子は江戸時代の小説の一種。井原西鶴が書いた「好色一代男」が第1作とされ、以後民衆の文学として上方で発達した。

(4) 連歌の発句が独立してできた俳句は、それまで余興やしやれとしてつくられていたが、松尾芭蕉によって高い文学性があたえられた。

3 享保の改革と社会の変化 P.116, 117

- 1 (1) 自給自足 (2) 間屋制
(3) 百姓一揆 (4) 打ちこわし

考え方 (1) 江戸時代以前は、農具は自作し、肥料も草木灰やたい肥など農村やその周辺で調達できるものが使われていたが、干鯛などが普及するにつれて、貨幣経済が浸透してきた。

(3) 一向一揆は浄土真宗の信徒によるもの。徳政一揆は借金の帳消しを求めたもの。

- 2 (1) 儉約 (2) 新田 (3) 年貢
(4) 公事方御定書 (5) 目安箱

考え方 (2) 新田開発には用水路の建設など、治水工事に多額の費用を必要とするものが多かった。そこで、大資本を持つ商人に新田開発を請け負わせて、開発後の年貢を期限を切って免除したりする方法がとられた。

(5) 江戸時代には、訴状のことを目安箱といいた。

- 3 (1) A 新井白石 B 徳川綱吉

- C 徳川吉宗 (2) ① 貨幣
② 物価 ③ 参勤交代
④ 公事方御定書 ⑤ 目安箱
(3) 生類憐みの令 (4) 享保の改革
(5) B → A → C

考え方 (1) C 徳川御三家の一つ、紀伊藩(和歌山県)の藩主であったが、その政治能力を買われて8代将軍となった。
(4) のちの寛政・天保の改革とともに、幕政の三大改革といいた。

まとめのドリル P.118, 119

- 1 (1) ① 年貢米 ② 新田
③ 両替商 ④ 株仲間
(2) ① ア・江戸 ② ウ・大阪
(3) 東海道 (4) 蔵屋敷

考え方 (1) ① 幕府や藩は年貢米を売って貨幣にかえ、必要品を買い求めた。

④ 幕府や藩は商人に株仲間を結成させて営業を独占させるかわりに、莫加や運上という税を取った。
(4) 蔵屋敷には藩が認めた商人が入りして、年貢米の売買などの実務を行った。

- 2 (1) ウ (2) 新井白石
(3) 金・銀の海外流出を防ぐため。
(4) ① 公事方御定書 ② 目安箱
③ 享保

考え方 (1) イは享保の改革で徳川吉宗が行ったもの。上げ米の制と呼ばれる。
(3) 長崎貿易での輸入超過によって、金・銀が海外に流出するのを防ぐために行われた。

(4) ② 目安には姓名などを明記しなければならなかった。目安箱への投票をきっかけに行われた政策に、小石川養生所の設置などがある。

- 3 (1) 井原西鶴 (2) 松尾芭蕉
(3) 近松門左衛門 (4) 菱川師宣

- 考え方** (3) 近松は、封建的な道徳と善良な人間性の矛盾に苦しむ武士・町人の悲劇をみつめ、その結果を死(心中)という敗北にした作品に特質がある。
- (4) 菱川師宣が始めた浮世絵は、のちに多色刷りの浮世絵版画(錦絵)として発展した。

10 幕府政治のゆきづまり

スタートドリル

P.122, 123

- 1** (1) 田沼意次 (2) 松平定信
(3) 根室 (4) ロシア
(5) 大塩平八郎 (6) 水野忠邦

考え方 (4) ロシアは早くからシベリアに派出し、やがてカムチャツカ半島、ベーリング海・樺太(サハリン)・千島列島にやって来た。その結果、食料などの供給地として日本が重要となり、女帝のエカテリーナ2世がラクスマンを根室に送り、日露貿易を求めてきた。

(6) 水野忠邦は肥前国(佐賀県)唐津藩主であったが、唐津藩主だと長崎奉行にしかねないので、自ら望んで遠江国(静岡県)浜松藩主となった。その結果、寺社奉行、大阪城代、京都所司代、老中へと出世した。しかし幕府内部に反対派が多く、老中罷免後は不遇の晩年を送った。

- 2** (1) 本居宣長 (2) 杉田玄白
(3) 寺子屋 (4) 化政文化

考え方 (1) 伊勢国(三重県)松阪の出身。医師を営みながら国学を研究した。賀茂真淵の門人となって古事記を研究し、35年間かかって「古事記伝」をあらわし、国学を大成した。

(2) 若狭国(福井県)小浜藩の医師。

前野良沢らとともにオランダ語で書かれた解剖書を翻訳し、「解体新書」として出版した。

- 3** (1) ① 江戸 ② 田沼意次
③ 松平定信 ④ 大塩平八郎
⑤ 水野忠邦 ⑥ 蘭学
⑦ 歌川(安藤)広重 (2) 財政

考え方 (1) ⑥ 16世紀のポルトガル語による南蛮学に対して、江戸時代のオランダ語を通しての学問をいう。当時、オランダを和蘭または和蘭陀と表記したため。⑦ 江戸の火消し同心の家に生まれたが、20代半ばで浮世絵に専念するため、家業をやめる。30代で「東海道五十三次」がヒットし、風景画としての地位を確立した。

1 幕府や諸藩の改革 P.124, 125

- 1** (1) ① 田沼意次 ② 商人
(2) 株仲間
(3) 銅・海産物輸出の奨励 (4) 天明

考え方 (1) ① 田沼意次は將軍の近くに仕える役から出世して大名に取り立てられ、老中になった。意次は、力を持ってきた商人と結ぶことで幕府の財政を立て直そうとしたが、経済を重視した政策はわるい政治といわれる政治の腐敗をまねき、失脚した。

(4) 天明のききんは、浅間山の噴火や冷害などを原因に、全国をおそった。特に東北地方の被害がひどく、餓死者が数十万人にもものぼった。

- 2** (1) 貨幣 (2) 年貢米 (3) 藩札
(4) 俸禄 (5) 専売

考え方 (4) 大名などの家臣の武士の大部分は、領地をもらうのではなく、藩などから米を給料としてもらい、それを換金して生活をしてきた。

(5) 薩摩藩(鹿児島県)の砂糖、長州藩(山口県)の紙・ろう、佐賀藩の陶

器などが有名である。

- 3** (1) 松平定信 (2) ウ (3) ウ
(4) 商品作物 (5) ききん(凶作)
(6) 商人(札差) (7) イ

考え方 (1) 天明のききんのとき、白河藩主(福島県)として、領内に一人の餓死者も出さなかったといわれる。その政治能力を買われて老中となったが、厳しすぎる統制は人々の不満をまねいた。

(3) 寛政異学の禁といわれる。

2 新しい学問と化政文化 P.126, 127

- 1** (1) 寺子屋 (2) 国学
(3) 杉田玄白 (4) 十返舎一九
(5) 小林一茶 (6) 葛飾北斎

考え方 (1) 「寺小屋」と書かないように気をつける。寺子屋では農民や町人の子どもを集め、読み・書き・そろばんなどを教えた。

(2) 心学は町人の生き方を体系づけた学問。蘭学は西洋の学術や文化を研究する学問で、のちに洋学と呼ばれた。

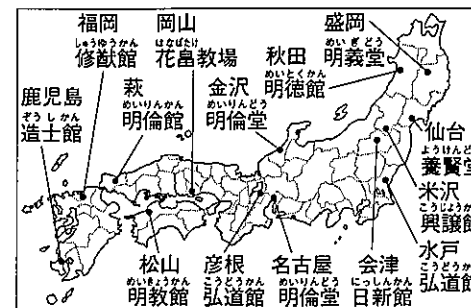
(6) 「富嶽三十六景」などの作品が有名である。

- 2** (1) 江戸 (2) 化政
(3) 狂歌

考え方 (3) 寛政の改革を皮肉った狂歌に、「世の中に 蚊ほどうるさきものはなし ぶんぶ(文武)といふて 夜もねられず」というものがある。

- 3** (1) 藩校 (2) 安藤昌益
(3) 本居宣長 (4) 伊能忠敬
(5) シーボルト

考え方 (1) 教育内容は、文武両道の理想から武術や儒学の講義が中心であったが、幕末には蘭学(洋学)や天文学、兵学なども加わった。江戸時代を通じて250余校も設立されたという。



▲おもな藩校

- 4** (1) 川柳 (2) 滝沢馬琴
(3) 錦絵 (4) 喜多川歌麿

考え方 (2) 「南総里見八犬伝」は、江戸時代の小説でも、文章が主体の「読本」といわれるもの。106冊180回の大作だった。

(4) 化政文化の浮世絵師として、美人画の喜多川歌麿、風景画の葛飾北斎、歌川(安藤)広重を覚えておく。

3 外国船の接近と天保の改革 P.128, 129

- 1** (1) ロシア船
(2) 異国船打払令
(3) 蘭学者 (4) 攘夷論

考え方 (1) アメリカも北太平洋で操業する捕鯨船の燃料や食料の補給のために、日本近海にあらわれるようになっていた。

(2) 1808年、当時フランスの属国であったオランダ船を追って、フランスと戦争をしていたイギリス船が長崎に侵入し、乱暴を働くという事件(フェートン号事件)が起こった。

(3) モリソン号事件を批判し、蘭学者の渡辺崋山と高野長英が幕府から厳しい処罰を受けた。これを蛮社の獄という。

- 2** (1) 天保 (2) 米価 (3) 大商人
(4) 大塩平八郎 (5) 法華一揆

考え方 (4) 天保のききんに際して、幕府の無策にいきり、門弟や付近の農民ら

とともに豪商をおそって救民のため米や金を分けあたえた。乱は1日で鎮圧されたが、大塩平八郎が高名な学者で、もと大阪町奉行所の役人であったため、幕府に大きな衝撃をあたえた。

- 3 (1) イ
(2) 異国船打払令(外国船打払令)
(3) 大阪 (4) ア (5) 鎖国
(6) ① 水野忠邦 ② 株仲間
③ 都市 ④ 大名

考え方 (1) ロシアのラクスマンは、日本の漂流民大黒屋光太夫らの送還を名目に根室に来航し、幕府に通商を求めたがことわられた。
(4) 高野長英はシーボルトに蘭学を学び、「戊戌夢物語」をあらわして、モリソン号事件に対する幕府の政策を批判した。

まとめのドリル

P.130, 131

- 1 (1) ① 株仲間 ② 朱子学
③ 株仲間 ④ 海産物
(2) A 水野忠邦 B 松平定信
C 田沼意次 (3) A 天保の改革
B 寛政の改革 (4) 昌平坂学問所
(5) ウ (6) C→B→A

考え方 (1) ①・③ 株仲間は、田沼意次のときに結成が奨励され、水野忠邦のときに解散させられた。

(4) もとは、孔子を祭った建物である湯島の聖堂にあった学問所で、このとき幕府直轄の学問所となった。

- 2 (1) 江戸 (2) A 伊能忠敬
B 杉田玄白(前野良沢)
C 歌川(安藤)広重

考え方 (1) 江戸時代後期には、文化の中心が江戸に移っていた。
(2) A 下総国(千葉県)佐原の酒造業者の出身だが、50歳をすぎてから

江戸に出て蘭学(天文学・測量学)を学び、幕府の命令で全国を測量して「大日本沿海輿地全図」という、正確な日本地図をつくった。

定期テスト対策問題

P.132, 133

- 1 (1) ① 新井白石 ② 田沼意次
③ 大塩平八郎 (2) 生類憐みの令
(3) イ (4) C 徳川吉宗
E 松平定信 H 水野忠邦
(5) F (6) ウ

考え方 (2) 自身が成年生まれだったことから、特に犬を大事にし、今の東京都中野におおがかりな犬小屋までつくって保護した。

(6) 長崎以外で外国との貿易が行われたのは、幕末の開国以後のことで、ヨーロッパの文物が一般の人々にまで流行したのは明治になってから。

- 2 (1) ア・江戸 (2) エ・大阪
(3) カ・長崎

考え方 (1) 幕府の所在地で政治の中心地。
(2) 経済の中心地。
(3) 出島があり、鎖国中ただ一つ外国との貿易が行われた都市。(2)とともに幕府の直轄都市だった。

- 3 (1) 井原西鶴 (2) 本居宣長
(3) 十返舎一九 (4) 松尾芭蕉
(5) 歌川(安藤)広重 (6) 伊能忠敬
(7) 近松門左衛門

考え方 (2) 本居宣長は国学の大成者といわれる。この学問は、幕末の尊王攘夷運動に大きな影響をあたえた。
(7) 近松門左衛門の脚本は、おもに人形浄瑠璃で上演された。

総合問題(政治)

P.134, 135

- 1 (1) A 倭 B 魏

- (2) 十七条の憲法 (3) ア (4) エ

考え方 (1) A 紀元前後ころの日本の様子を書いた中国の歴史書に「楽浪(中国の植民地、今の北朝鮮にあった国)海中倭人あり」とある。
(2) 十七条の憲法は仏教、儒教などの思想を取り入れており、精神的な面で天皇の権威の正当性を確立しようとした。
(3) 高句麗でなく、百濟を助けようとして出兵した。

- 2 (1) 太政大臣
(2) 後醍醐天皇・建武の新政
(3) 応仁の乱

考え方 (1) 太政官の長官で、律令制度の最高官。天智天皇のときに大友皇子が任命されたのがはじめてで、皇子が藤原氏がついでいた。

(2) 後醍醐天皇は古代天皇制の復活を図ろうとしたが、倒幕の中心となったのが武士であり、貴族が長く政権をはなれていたため、しよせん武士にたよらなければならなかった。

- 3 (1) 岐阜県 (2) 江戸 (3) ア
(4) ウ (5) オランダ (6) イ
(7) ア (8) イ

考え方 (3) 1614年の大阪冬の陣、1615年の大阪夏の陣で、豊臣氏はほろんでしまった。
(8) 白河とは白河藩主の松平定信、田沼とは田沼意次をさしている。

総合問題(経済・社会)

P.136, 137

- 1 (1) ① 奈良時代 ② 防人
③ ウ (2) イ

考え方 (1) ① この歌は、奈良時代につくられた万葉集におさめられている。
③ 調や庸は、成人男子に課せられた。

(2) 墾田永年私財法によって開墾した土地の永久私有が許されたので、貴族や寺社が私有地を増やし、のちの荘園のもととなった。

- 2 (1) 蝦夷 (2) 武士
(3) 荘園

考え方 (2) 10世紀以降、各地で成長してきた名主層が土着勢力としてしだいに領主化する中で、武力をたくわえて武士となった。

- 3 (1) イ
(2) 高利貸を営んでいたため。
(3) 一揆

考え方 (2) 土倉や酒屋は高利貸を行い、10%前後の利子を取っていた。貸した金もどらないときは担保物件としての土地を取り上げたので農民からのうらみを買ひ、しばしば一揆の対象となった。

- 4 (1) a 本百姓 b 水のみ百姓
(2) ① 備中ぐわ ② 千歯こき
(3) イ

考え方 (1) a 本百姓は耕地を持ち、検地帳にのり、年貢を負担した。
b 水のみ百姓は入会・用水の利用・寄合への参加の権利から除外されていた。
(3) べにはなはキク科の植物で、黄色や紅色にそめるときに使い、今でも山形県の特産である。

総合問題(文化)

P.138, 139

- 1 (1) ウ (2) イ
(3) エ

考え方 (1) メソポタミアとはチグリス川とユーフラテス川の間地域。ギリシャ語で「二つの川の間土地」という意味。

(2) アーリア人は今日のインド人の

主流をなす人種。

- ② (1) ウ (2) イ
(3) ウ (4) 書院造

☞ 考え方 (3) 新古今和歌集は、鎌倉時代につ
くられた。

- ③ (1) 天守閣
(2) イ

☞ 考え方 (2) アとウは江戸時代の元禄文化の
時代の人物。

- ④ (1) ア (2) 国学 (3) 解体新書
(4) ウ (5) ウ

☞ 考え方 (1) イ・ウは化政文化の時代の特色。
(4) アは元禄文化、イは桃山文化の
時代の人物。